旧甲子園ホテル見学と甲子園口駅周辺まち歩き　レポート

＜概要＞
日時：2025 年（令和７年）２月８日（土）10：00～15：00
スケジュール：
10：00～　旧甲子園ホテル見学
12：00～　ランチ交流　欧州料理ラ・ブリック
14：00～　まち歩き
主催：（公社）兵庫県建築士会女性委員会
参加：19 名

毎年度 1 回、女性委員会で実施している「建築文化交流事業」の今年度の見学先は、旧甲子園ホテルと、甲子園口駅周辺と決まりました。

午前は、旧甲子園ホテル（現在は武庫川女子大学甲子園会館）の見学です。この建物は日本に残る数少ないライト式の建築であり、国の近代化産業遺産および登録有形文化財に登録され、武庫川女子大学により修復・活用されています。

案内いただいたのは、甲子園会館の平野義典さん。一級建築士ということで、建物の専門的な情報も多く話していただきました。

旧甲子園ホテルの敷地は、武庫川の支流だった旧枝川が始まる分岐点に位置しており、敷地北側には旧枝川の名残の枝川樋門が残されていました。

ライトの愛弟子である遠藤新が設計しましたが、当時ホテル界の第一人者と言われていた林愛作が設計者の選定に関わっていたこと、ライトと遠藤との手紙のやり取りのエピソードなどもお聞きしました。

説明の後は、実際に建物を見て回りました。

遠藤独自のデザインとして、打出の小槌や水滴のモチーフが建物随所に使われていました。また半地下バーの床は、泰山タイルが使われていましたが、試し焼きされたタイルなど本来使われないタイルのモザイクでつくられており、遠藤のセンスと遊び心がわかる部屋となっていました。

西ホール入口近くにある水鉢に冬至の頃、太陽の日差しが入るように設計されているのですが、日影曲線から冬至の太陽高度を割り出して水鉢の位置を

決めたようです。
　屋上テラスからは、塔や改修中の屋根瓦を間近に見ることができました。昔の瓦の微妙な色合いを再現するために多くの色の瓦を新たに焼いて混ぜ合わせているとのことです。
　他にも見どころがたくさんあり、できる限りの時間を使って説明していただきました。

　ランチは、そこから歩いて 5 分の欧州料理店でいただきました。初めて参加されていた方から、「毎日士会からの情報をチェックしていて大変興味があったので参加した」、また「女性委員会主催なので始め申込を躊躇したが来てよかった」などのコメントをいただき、歓談時間はとてもにぎやかに交流できました。

　午後からは、女性委員会担当理事の杉本さんの案内で、甲子園口駅周辺のまち歩きを行いました。
　このエリアから南は、戦時中は空軍や戦後も大きな娯楽施設などの開発があったため、武庫大橋のデザインも、それにふさわしい荘厳なものになっていました。また、阪神電鉄が高級住宅地を開発したので、宅地割りも大きく、石垣の立派な街並みが続いていました。
　その後、安藤忠雄さんが設計されたヌーベル甲子園、マンボウトンネルを見学し、終了しました。

　当日、昼から雪混じりのあられが降るなど、見学には大変な状況でしたが、甲子園というコンパクトなエリアの中に、たくさんの見どころがある充実した見学会となりました。

　兵庫県のエリアはとても大きいので、普段お会いすることがない方々とリアルに集まって見学し交流できる機会を今後も作っていきたいと、改めて思いました。

（記：山本和代）